

加藤

勝治さん (73歳)

道江さん (71歳)

曙5条2丁目

●幼なじみが結婚!

お二人とも、歌志内が出身地。勝治さん二十三歳、道江さん二十一歳の時に結婚しましたが、小学生のときからお互いを知っていたという同窓生カップルです。三人のお子さんにも恵まれました。炭鉱マンとして働く勝治さんはその後、三笠の炭鉱に転勤しましたが、閉山を機に退職し、手稲に移ってきました。今から三十年以上前の昭和四十六年のことです。

●大好きな手稲山

転居先を決めるときに、真っ先に思い浮かんだのが「手稲」でした。

「若いころはスキーが好きで、よく炭鉱スキー部の連中と道内各地へスキーに出掛けたよ。手稲山は素晴らしいと聞いて、来てみたら本当に良かった。それ以来、〈ていね〉という言葉の響きが気に入っていたんだよ」と勝治さん。

●昔の思い出

「新婚旅行するような貯金もなかったし、テレビもない

時代だからね。楽しみは、炭鉱の映画館で週一回上映する時代劇を見ることだった」と二人は口をそろえます。

また、約三十年前に手稲へ越してきたころは、周囲にあまり家は建っておらず、時折吹きつける突風に悩まされたそうです。「今のような住宅街

になるなんて、想像もつきませんでした」と道江さん。

●一番の思い出

今から五、六年前に、箱根までゆっくり旅行をしたことが、一番の思い出です。

「二人とも、この時に初めて飛行機に乗ったんだよ」と思い出を話してくれました。



●円満のコツは楽しく生きる

勝治さんは、日本書道協会認定の、「薫風」という名を持つ書家。また、木彫りも長年続けており、サークルの仲間と年に一度は作品展示会を開いています。道江さんも手芸を十年以上続けており、地域の方に教えることもあるそ

うです。自分が夢中になれる趣味は、ストレス発散になっ

て健康にも良い。また、お孫さんが小さいときから家にとため、病気になるっている暇がなかったと笑う道江さん。

夫婦円満のこつを伺うと、「主人が耐えてきたから、うまくいったんじゃない(笑)」

新婚2カ月ごろのお二人▶



と道江さんが言うのと、「そうかもしれないなあ(笑)。まあ、好きで一緒になったんだから、多少おもしろくないことがあっても運命だと思っておきめ(笑)。楽しく生きた方がいいからね」と笑顔で勝治さんが答えてくれました。「ますます元気で頑張りましょう」と二人は話しています。



大好きな趣味と楽しい仲間、そしてにぎやかな家族に囲まれ、ちよっぴりご主人が耐えている(?)…。これが加藤夫妻の夫婦円満と健康のこつかもしれない。

今回、取材した二組のご夫婦は、ふるさと〈ていね〉の発展を見続け、また、貢献されてきました。これからも、十年後のダイヤモンド婚式を目指して、ますます健康で楽しく頑張っって欲しいですね。